

◆◇ カリキュラムポリシー ◇◇

I. 各分野の考え方

2. 専門分野

「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」の7領域の看護学から成る。

基礎看護学では、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法等を学ぶ内容とし、シミュレーション等を活用した演習を強化する内容とした。

各看護学及び地域・在宅看護論の基礎となる基礎的理論や基礎的技術を学ぶため、看護学概論、看護技術、臨床看護総論を含む内容とし、対象理解演習、看護過程演習、臨床看護基礎技術演習を内容に含めた。これらの演習によりコミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化し、事例等に対して、看護技術を適用する方法の基礎を学べる内容とした。また、看護におけるケアリングの概念や関連する理論を学び、実習での看護実践場面を振り返り、自己の在り方や患者とのケアリングの関係性について意味づけする科目を設定した。

看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う内容とした。

臨地実習は、入院している対象の生活と環境を理解する内容、対象を支える他職種の役割を学ぶ内容、日常生活援助を通して、対象とのケアリングの関係性のありようを理解する内容を設定した。また、看護過程の実際を理解し、対象に応じた看護を実践する内容を設定した。

地域・在宅看護論はあらゆる年代・健康レベルの人・家族・地域を対象とし、生活者に対する看護という視点から基礎看護学の次に位置づけた。基礎看護学で日常生活援助技術を学習した後に、地域・在宅での日常生活援助技術を学んでいくようにした。

社会状況の変化を踏まえ、療養の場が変わっても切れ目のない支援や地域社会での暮らしを包括した支援が求められていることから、地域を知り、地域で療養する人の生活環境や状況、地域社会で看護職が果たす役割や機能を学ぶ内容とした。

臨地実習は、地域で療養者やその家族の看護を学ぶ訪問看護に加え、病院と地域との連携や支援を学ぶ地域連携室、患者の生活と治療・療養上のニーズから病院外来での支援・相談を学ぶ外来看護、他職種との協働・連携を学ぶリハビリテーション室での実習を設定した。

精神看護学では、精神の健康の保持増進と精神障害時の看護を統合的に学習できるよう精神保健や疾病論、看護方法論を含めた内容とした。

各看護学は、発達段階に応じその特徴と健康上の課題を明らかにし、対象の思いや特徴をふまえ、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を育成する。

臨床実践能力の向上を図るため、看護過程の展開や看護技術等の演習を強化した内容とした。

各看護学においては、看護の対象及び目的の理解、予防、健康の回復、保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ内容とした。

成人看護学では、成人期の特徴に基づいた看護の考え方や理論と援助方法論を学ぶ。

老年看護学では特に、生活機能の視点からアセスメントし老年期の対象に応じた看護を展開する方法を学ぶ内容とした。

小児看護学では、すべての健康レベルにある子どもを対象として、その成長発達の過程を支える看護を学ぶ。

母性看護学では、女性のライフサイクル全般を通じて、母性の健康保持・増進を目指す看護を学ぶ。そしてリプロダクティブヘルス／ライツの観点から母性看護の概念の変遷を学び、女性だけでなく、家族とその家族が生活する地域への看護を学ぶ。

臨地実習は知識・技術を看護実践の場面に適応し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を養う内容とした。チームの一員としての役割を学び、保健医療福祉との連携、協働を通して、看護を実践できる能力を養う内容とした。

・成人・老年看護学の臨地実習は、成人・老年看護学実習Ⅰ（回復期）、成人・老年看護学実習Ⅱ（退院支援）、成人・老年看護学実習Ⅲ（周手術期）、成人・老年看護学実習Ⅳ（慢性期）、成人・老年看護学実習Ⅴ（終末期）の5科目で学ぶ。

・成人・老年看護学実習Ⅰ（回復期）は、回復期にある対象の特徴を理解し、回復の促進や自立に向けた看護を学ぶ。

・成人・老年看護学実習Ⅱ（退院支援）は、回復期・慢性期にある対象を理解し、対象とその家族が望む生活が送れるよう退院に向けた支援を学ぶ。対象の問題の抽出と解決に向けた退院支援・調整、患者に必要な社会資源を活用することや、在宅療養をふまえた実際の退院指導、退院調整部門・看護師・社会福祉士などの役割分担について学ぶ。

・成人・老年看護学実習Ⅲ（周手術期）は周手術期にある対象を理解し、手術前・中・後の状況に応じた看護を学ぶ。手術室・ICU等の看護を見学し、生命の危機的状態にある対象の看護を学ぶ。

・成人・老年看護学実習Ⅳ（慢性期）は、神経筋難病・筋ジストロフィーなどの慢性疾患を持つ対象を理解し、症状をコントロールし、その人らしく生活するための看護を学ぶ。

・成人・老年看護学実習Ⅴ（終末期）は、終末期にある対象を理解し、対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面に及ぼす苦痛を緩和し、対象のQOLを高めるための看護を学ぶ。緩和ケア病棟での実習を含む。

・老年看護学の臨地実習は、老年看護学実習Ⅰ（生活支援）で、地域包括支援センターと介護老人保健・福祉施設で、さまざまな健康レベルと生活の場にいる高齢者を理解し、その対象に応じた看護を学ぶ内容とした。

・小児看護学の臨地実習は、健康な小児の看護を学ぶ保育所・児童センターと様々な健康の状態であり外来受診する小児の看護を学ぶ。そしてセーフティネット医療である重症心身障害をもつ子どもの看護を病院実習で学ぶ内容とした。

・母性看護学の臨地実習は、妊産婦・褥婦、新生児の看護を病院実習で学ぶ。母親学級に参加する妊婦への看護や赤ちゃん先生ではママ講師から妊娠期、分娩期、産褥期の心理的・社会的変化を学ぶ。学内実習では女性のライフサイクルにある対象と家族を理解し、健康な経過を保持増進するための看護実践する能力を養う内容とした。テキスト・文献などを活用し、グループでまとめ発表し、主体的に学ぶ。

看護の統合と実践では、チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働を学ぶ内容とする。

「看護総合マネジメント」で看護をマネジメントできる基礎的能力を養い、災害看護のトリアージなどの基礎的知識、国際社会における看護師として諸外国との協力を考える内容とした。

医療安全の基礎的知識を理解し、リスクに対する感性を高める内容と看護師としての倫理と倫理的問題へのアプローチ方法と患者の自己決定を支える看護師の役割を学ぶために「医療安全と看護倫理」を科目とした。これらの科目は、事例検討やシミュレーション学習ができるように演習をする。

臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、病態アセスメント演習Ⅰと病態アセスメント演習Ⅱの科目を段階的に学び、看護の総合的な評価を行う内容として、「看護実践演習」を設定しより実践的な技術の評価につながるように演習をする。

臨地実習は知識・技術を看護実践の場面に適応し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を養う内容とした。チームの一員としての役割を学び、保健医療福祉との連携、協働を通して、看護を実践できる能力を養う内容とした。

「地域・在宅看護論実習」では、訪問看護に加え、地域連携の実際など多様な場で実習を行うよう内容とした。

「看護総合実習」において、専門分野での実習を踏まえ、実務に即した実習を行う。

この実習では、看護管理の実際と看護チームの中の一員としてリーダーとメンバーの役割と複数の患者を受け持ち、優先順位を考慮しながら必要な看護を学ぶ。また、医療現場の安全システムについて学ぶ。これらの内容を学ぶために、単位数を増やした。